

こどもを、  
こども扱いしよう。



これからの保育はどうなるのでしょうか。  
浅井先生、教えてください。

こどもは100の言葉を持っている。このフレーズを知っていますか？  
これは、北イタリアのレッジョ・エミリア市で実践されている、  
アート表現を柱とする幼児教育から生まれた言葉。  
こどもはさまざまな言葉やしぐさ、お絵かきなどの制作を通じて、  
ひとりひとりの意志や思考、世界観を表しているという考え方です。  
この街の保育者は、大人の考える「枠」をおしつけず、  
ときには手をさしのべながら、こどもたちの成長を見守っています。  
まず、こどものありのままを認めること。  
つまり、こどもをちゃんと、こども扱いすること。  
これからの保育にとって大切になると思います。

(心理教育学科保育専修 専任講師 浅井幸子)

和光  
3分  
大学



現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学